

◆◇「犯罪からの子どもの安全」メールマガジン vol.42 ◇◆
2012年3月1日号

このメールマガジンでは、(独)科学技術振興機構 社会技術研究開発センター(以下、RISTEX)「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域が領域の活動報告をはじめ、各種イベント案内、国の取組み、問題に取り組む人々の紹介など、犯罪からの子どもの安全に関する様々な情報を毎月一回程度配信しております。

次回から配信を希望されない方、登録情報を変更したい方は、末尾をご参照下さい。

メルマガについてご意見やご感想、こんな情報が知りたい、こんな取り組みを行っているなど、皆様からの情報をお待ちしています！

◆◆ INDEX ◆◆

1. 研究開発領域・プロジェクトの活動紹介
2. 犯罪からの子どもの安全レポート
 - ・「計画的な防犯まちづくりの支援システムの構築」プロジェクト
評価改善グループ、社団法人子ども安全まちづくりパートナーズ
シンポジウム『地域「子ども安全」活動の評価と改善』参加レポート
 - ・子どものケータイ利用を考える全国市民ネットワーク、
ぐんま子どもセーフネット活動委員会
第3回子どものケータイ利用を考える全国市民ネットワーク全国会議参加レポート
3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報
 - ・国の取組み情報
 - ・イベント情報
 - ・見どころピックアップ！
4. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング
2月一番注目されたコンテンツとは・・・
5. 今月のキーワード
CPTED

東日本大震災で被災された方々に、心よりお見舞いを申し上げますとともに、皆様の安全と一日も早い復興をお祈りいたします。

暦の上では立春が過ぎ、各地で梅の開花の話題を耳にするようになりました。春が一足ごとに近づいてきていますね。

さて、2月は、犯罪対策に関わる大きな報道が2つありました。

20日に、99年に起きた山口県光市の母子殺害事件で、最高裁判所は被告の上告を棄却し、犯行当時18歳1カ月だった元少年の死刑が確定しました。今回の結果を受け、少年事件の厳罰化や、死刑を適用する際の判断基準に大きく影響する

のではないかと報道もなされています。

また、23日には、取調べの可視化や新たな捜査手法について検討していた警察庁の有識者研究会が最終報告書を取りまとめ、公開しました。

「捜査手法、取調べの高度化を図るための研究会 最終報告書」
<http://www.npa.go.jp/shintyaku/keiki/saisyuu.pdf>

一律に全過程で実施する全面可視化については結論を見送った一方で、試行対象拡大を提言しています。また、科学技術の発展等による社会の変化等に対応して治安水準を維持していくためには、客観証拠による的確な立証が可能となる捜査手法を不断に検討する必要がある、と述べられています。

犯罪対策に関わる大きな動きについては、領域でも注目していきたいと思います。

続いては、今月号のメルマガの紹介です。レポートでは、前号でもお知らせした、シンポジウム『地域「子ども安全」活動の評価と改善』の様子と、子ども達を取りまくインターネット環境について話し合われた「子どものケータイ利用を考える全国市民ネットワーク全国会議」の様子をお伝えします。

それでは、最後までお楽しみ下さい。

1. 研究開発領域・プロジェクトの活動紹介

2月の領域およびプロジェクトの動きをご紹介します。2月は、沢山の動きがありました。まずは、プロジェクト主催のイベントのご案内から。

「子どもを犯罪から守るための多機関連携モデルの提唱」プロジェクトでは、3月15日に都内で公開シンポジウムを開催致します。警察・児童相談所・教育委員会を中心に、関係機関が子どもを犯罪の被害・加害から守るために適切かつ有効な連携のあり方を研究してきました。この3月に終了する本プロジェクトの、最終成果発信の場でもあります。是非、ご参加下さい。

シンポジウムの詳細はこちら：
<http://www.waseda.jp/prj-wipss/jst7.html>

「子どもの見守りによる安全な地域社会の構築 ハート・ルネサンス」プロジェクトでは、研究期間終了後も各所から問い合わせや視察があり、プロジェクトの成果紹介や意見交換、研修会での講演等を実施しています。

「子どもの被害の測定と防犯活動の実証的基盤の確立」プロジェクトは、日本教育新聞に研究の様子が紹介されました。以下よりご覧いただけます。

http://www.anzen-kodomo.jp/program/research/y_harada.html

「犯罪からの子どもの安全を目指したe-learningシステムの開発」プロジェクトでは、各地の公立小学校で実証実験を行っています。今月は、都内の小学校で実施し、領域アドバイザーと共にサイトビジットを行いました。

2月11日に行われた、子どものケータイ利用を考える全国市民ネットワーク全国会議の分科会に、「子どものネット遊び場の危険回避、予防システムの開発」プロジェクト実施者の片山氏がパネリストとして参加しました。様子については、後述のレポートをご覧ください。

「計画的な防犯まちづくりの支援システムの構築」プロジェクトでは、2月19日にシンポジウム『地域「子ども安全」活動の評価と改善』を開催。後述のレポートを

ご覧ください。また、27日には、全体調整会議を実施し、各グループの進捗報告と、次年度計画等についての話し合いが行われました。

「演劇ワークショップをコアとした地域防犯ネットワークの構築」プロジェクトでは、1～3月にかけて、新コンテンツの演劇防犯ワークショップの社会実験を関西の小学校で実施しています。

「系統的な「防犯学習教材」研究開発・実践プロジェクト」「子どもの被害の測定と防犯活動の実証的基盤の確立」プロジェクトの研究開発実施終了報告書を領域WEBに掲載しました。是非、ご覧ください。

研究開発実施終了報告書

<http://www.anzen-kodomo.jp/reporters/reports/reports2007.html>

2. 犯罪からの子どもの安全レポート

- シンポジウム『地域「子ども安全」活動の評価と改善』参加レポート
2012年2月19日 東京大学弥生講堂セイホクギャラリー（東京都文京区）
主催：「計画的な防犯まちづくりの支援システムの構築」プロジェクト
評価改善グループ、社団法人子ども安全まちづくりパートナーズ

2月19日（日）の午後2時から3時間にわたって、私たちの研究領域のプロジェクトの1つ「計画的な防犯まちづくりの支援システムの構築」の評価改善グループと「子ども安全まちづくりパートナーズ」が共催したシンポジウムに出席しました。

このプロジェクトは、明治大学工学部の山本俊哉教授が研究代表者として平成20年にスタートしたものです。「子ども安全まちづくりパートナーズ」は、本プロジェクトが成果の社会実装を目指して設立した一般社団法人です。

会場は、東京大学農学部の弥生講堂セイホクギャラリーでした。アーチ型の木製の天井の間から空が見える洒落た建物でしたが、当日は快晴にもかかわらず、つま先からしんと冷えこんでくる寒い日でした。天井が高いのが一つの理由でしょうが、初夏でもあれば、さぞ居心地の良いホールだったのでしょうか。

研究代表者の山本教授が、プロジェクトの趣旨と地域安全の考え方について紹介された後、守山正・拓殖大学教授が『地域「子ども安全」活動の意義』について話され、続いて、宮城直樹・警察庁生活安全企画課長が、「地域における子ども・女性安全対策班の活動」というタイトルで、全国に配置されている子ども女性安全対策班の活動を説明されました。

この活動に従事している警察官の約4分の1は女性であり、この割合は、警察官全体で女性が占める割合が8%であることに比べるとずっと大きいそうです。活動の難しさが、被害情報の収集、子どもが当事者であること、行為者の再犯抑止の3点にあるという説明には、納得できるものがありました。

短い休憩の後、瀬渡章子・奈良女子大学教授が、「奈良市富雄地区における小学生の見守り活動と評価」というタイトルで、2004年11月に起こった小学生の女の子の誘拐殺害事件前後における、通学路見守り活動の成果と問題点について発表されました。

富雄北小学校では、2004年8月、不審者の学校侵入を懸念した地元の自治連合会が学校の敷地2か所に監視小屋「みてるくん」を寄付し、地域ボランティアや保護者が当番で見守りを始めたのですが、痛ましい事件は、その3か月後に小学1年生が1人で徒歩にて帰宅する途中で起こりました。

日本のように、小学生の通学に特別な送迎サービスがない国は珍しく、日本に

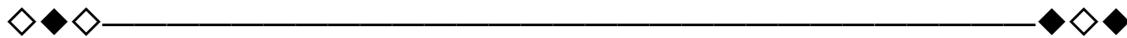
来た外国人は、いざ子どもを小学校に通わせるとなるとびっくりするそうです。瀬渡教授は、富雄地区の事件をきっかけにできた「集団登下校システム」の実情と問題点について具体的に説明されました。保護者、地域ボランティア、子ども、学校のそれぞれが挙げている問題点には、富雄地区を超えた多くの共通点があるという指摘には、なるほどと思われました。例えば、子どもがいう「通学ルールが厳しくて楽しくない」とか、「登下校時刻を厳守しなければならないので放課後の活動ができない」という学校の挙げる問題点などは、当事者たちの素直な感想と思われま

最後の講演は、防犯に関する地域コミュニティの活動をどう評価すればよいかに関するもので、ロンドン大学ジル・ダンドー犯罪科学研究所のリチャード・ウォートレー教授によるものでした。地域安全プログラムを、教育的プログラム、コミュニティ内の人間関係を強めることによる防犯力増強プログラム、特定の場所の環境を改善することによる環境的なプログラムに分類されていましたが、これは、山本プロジェクトが目指しているゴールと一致していると感じました。

しかし、開発された「地域安全を向上させる方法」がどの程度の効果を持つかの評価はきわめて難しいというのが、ウォートレー教授のご意見でもあり、「計画的な防犯まちづくりの支援システム」の評価改善グループの活動にとっても、今後この点をどう考えていくかがキーになるものと思われま

余談になりますが、当日は日曜日だったため、コーヒー屋さんも閉まっているところばかり。赤門の近くでやっと見つけた営業中のコーヒー屋で飲んだコーヒーの美味しかったこと。

(領域総括T.K.)



●第3回子どものケータイ利用を考える全国市民ネットワーク全国会議参加レポート
2012年2月11日 子どもの城（東京都渋谷区）
主催：子どものケータイ利用を考える全国市民ネットワーク、
ぐんま子どもセーフネット活動委員会

近年、子ども達を取りまくインターネット利用環境は、急速に変化してきています。家庭へのパソコンの普及はもちろんのこと、子どものケータイ所持率は小学6年生で約30%、中学3年生で約60%となっています（平成22年度「全国学力・学習状況調査」）。

子どもがケータイを持つことにより、親子でいつでも連絡が取れるという点や、緊急事態が発生した時に子どもの居場所の把握に役立つ等の利便性がある一方で、インターネットを通じて子どもが犯罪の被害者・加害者となるケースも少なくありません。

2月11日に、「子どものケータイ利用を考える全国市民ネットワーク全国会議」が都内で開かれました。今回で第3回目となる、この大会。子どもをケータイ・インターネットの害から守るために、市民ボランティア、ケータイ問題を担当する行政、事業者、教育関係者等が全国22地域から200名弱集まり、意見交換等による連携促進や課題解決の方向性を探りました。

会議は、午前中2つの講話と基調講演、午後には4つの分科会と全体会という構成で実施されました。内容は、子どもの携帯電話をめぐる問題の実状から、子どもへの情報モラル教育の状況、保護者向けのネット利用教育の在り方、市民と行政が協働した事例など、幅広いものとなっていました。

午後に実施された第3分科会は、「ネットパトロールの取り組み概要と今後の

課題」をテーマに開かれ、当領域の「子どものネット遊び場の危険回避、予防システムの開発」プロジェクト実施者である片山雄介氏（NPO法人青少年メディア研究協会）がパネリストとして参加。

初めに、「文部科学省における学校ネットパトロールの取り組みについて」と題して、中村崇志氏（文部科学省）からの講話があり、パネルディスカッションへ。前述の中村氏、片山氏に加え、奥田隆行氏（三重県教育委員会）、伊藤賢一氏（群馬大学）、高橋大洋氏（ピットクルー株式会社）の5名をパネリストに、コーディネーターを大谷良光氏（弘前大学）が務め、意見が交わされました。

近年、各機関でネットパトロールが進められており、三重県では、三重大学と連携してネットパトロールを実施している他、群馬大学では、教育学部の学生チームが、情報の扱いに関する講習を受けた上でネットパトロールを実施しているそうです。

民間企業であるピットクルー(株)は、サイト上の違法・有害情報や不正利用の検出・排除を主な事業としています。SNSサイトにはロックがかかっており、パトロールをすることが困難な場合もありますが、これについては、不正アクセス禁止法の観点から、専門業者も介入は難しいとのこと。しかし、パトロール用にアカウントを貸すSNSサイトも出てきているそうです。

ディスカッションでは、各機関で取組みは進められている一方で、ネットパトロールを実施しても、全体を見守るのは難しく、今後どうやって全体を見守る形にするのか、という課題が挙げられました。また、書き込みを削除しても、もぐらたたきになってしまう状況があるとのこと。そのため、なぜこういう書き込みがあったのかという背景を考え、問題解決に取り組む必要があり、いかに、保護者や教育現場にその力をつけていくかが重要であるとのことでした。

今回、会議への参加を通じて、学校・家庭・地域が協働して子ども達を見守り育てる取りくみや体制をつくっていくことの重要性を強く感じると共に、参加者の皆さんの積極的に意見を交わす姿がとても印象に残りました。今後のネットワークの動きに注目です。

(領域担当S. T.)

3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報

【更新情報】

●国の取組み

子ども・子育て新システムに関する基本制度とりまとめ」について(内閣府)
<http://www8.cao.go.jp/shoushi/10motto/08kosodate/wg/index.html#kihon2>

少年非行等の概要（平成23年1～12月）（警察庁）
<http://www.npa.go.jp/safetylife/syonen/syounennhikoutounogaiyou.pdf>

スマートフォンを經由した利用者情報の取扱いに関するWG（第2回）配布資料等（総務省）
http://www.soumu.go.jp/menu_sosiki/kenkyu/riyousya_ict/02kiban08_03000089.html

死刑の在り方についての勉強会（第10回）資料等（法務省）
http://www.moj.go.jp/keiji1/keiji12_00050.html

学校安全の推進に関する計画の策定について（答申）（素案）に関する

意見募集の実施について【3月6日まで】（文部科学省）
<http://search.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=185000565>

社会的養護の現状について（平成24年2月版）（厚生労働省）
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/syakaiteki_yougo.html

持続可能で活力ある国土・地域づくり」の推進について（国土交通省）
http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/point/sosei_point_tk_000009.html

成24年度「中心市街地商業等活性化支援業務（人材育成事業）」に係る
委託先の公募について（経済産業省）
<http://www.meti.go.jp/information/data/c120220aj.html>

その他の取組みについてはこちら
→ <http://www.anzen-kodomo.jp/ministries/>

●イベント情報

3月3日
日本環境心理学会
「日本環境心理学会 第5回大会」
口頭発表において、「子どもの安全をめぐる母親の意識と行動」と題して、
原田プロジェクト実施者が発表を行います。
http://jsep.tbo.jp/html/htdocs/?page_id=19

3月4日
龍谷大学矯正・保護総合センター
「更生保護の課題と方向性について」
<http://hansha.daishodai.ac.jp/news/ryukoku2.pdf>

3月6日-9日
日本経済新聞社
「SECURITY SHOW | セキュリティ・安全管理の総合展示会」
<http://www.shopbiz.jp/ss/>

3月9日
長崎県南島原市
「児童虐待防止講演会～こどもの笑顔をまもるために～」
http://www.city.minamishimabara.lg.jp/life/pub/detail.aspx?c_id=34&type=top&id=1067

3月15日
JST研究開発プログラム「犯罪からの子どもの安全」
「子どもを犯罪から守るための多機関連携モデルの提唱」プロジェクト
「公開シンポジウム－三政令市（北九州市・札幌市・横浜市）における
子どもを犯罪から守るための多機関連携の仕組みの現状と課題－」
プロジェクト主催のシンポジウムです。事前申し込みは不要です。
<http://www.waseda.jp/prj-wipss/jst7.html>

その他のイベントについてはこちら
→ <http://www.anzen-kodomo.jp/event/>



【見どころピックアップ!】

今回の見どころは、トピックスから、「catかふえ 特別対談 世界基準の『安心・安全なまちづくり』で子どもたちを守る」です。

本メルマガでこれまでも紹介した、セーフコミュニティや、インターナショナルセーフスクール。世界基準の安心・安全なまちづくりに向けて、これらのプログラムに取り組む神奈川県厚木市の小林常良市長と、同市のセーフコミュニティ専門委員も務める当領域アドバイザー石附弘氏による特別対談を実施しました。

厚木市の取り組みやその成果について、さらにはセーフコミュニティ活動を進める自治体が集まって新たに設立された「全国セーフコミュニティ推進自治体ネットワーク会議」の役割などについて、語っていただきました。

トピックス catかふえ特別座談会
→世界基準の「安心・安全なまちづくり」で子どもたちを守る
<http://www.anzen-kodomo.jp/column/catcaffe/>

4. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング

【アクセスランキング】

- ☆ 1位 第4回「犯罪からの子どもの安全」シンポジウム 予稿集
<http://anzen-kodomo.jp//column/kyoudou/sympo04/yoko.pdf>

- 2位 プロジェクト関与者インタビュー
携帯電話、インターネット問題の怖さを子ども見守る親の立場から伝えたい
http://anzen-kodomo.jp//pdf/ad_04.pdf

- 3位 プロジェクト関与者インタビュー
毎日が厳しい現実との戦い 少しでも子どもを救いたい
<http://anzen-kodomo.jp//pdf/col18.pdf>

5. 今月のキーワード

「CPTED」

レポートでお伝えしたシンポジウム『地域「子ども安全」活動の評価と改善』の際に、取り上げられた「CPTED（セプテッド）」という言葉。

Crime Prevention Through Environmental Designの略で、日本語では、物的環境の改善による犯罪予防、防犯環境設計、等と訳されています。
「人間によってつくられた環境の適切なデザインと効果的な使用によって、犯罪の不安感と犯罪の発生の減少、そして生活の質の向上を導くことができる」という考え方に基づいています。

1970年代の初頭に、アメリカの犯罪学者C. Ray Jefferyや建築学者Oscar Newmanがほぼ同時期に提示したモデルから発達しました。

日本でも、学校や商業施設など、防犯まちづくりを進める際の指針とされ、

平成14年には、文部科学省の「学校施設の防犯対策について」の報告の中で、そして、平成19年には、国土交通省 都市・地域整備局の「防犯性能を考慮した商業地の公共施設整備・管理手法の検討報告書」の中でCPTEDについて述べられています。

日本の公的な指針では、(1) 被害対象の強化・回避、(2) 接近の制御、(3) 監視性の確保、(4) 領域性の強化、の4つを基本的な手法としています。

詳しくは、当領域の2プロジェクトが関わる以下をご覧ください。

防犯まちづくりのヒントとガイド：防犯環境設計（CPTED）
<http://kodomo-anken.org/manual/p051/tishiki-16/>

犯罪と市民の心理学：犯罪リスクに社会はどうかかわるか
小俣謙二・島田貴仁 編著、北大路書房（2011）

「犯罪からの子どもの安全メールマガジン」

- ▼メールマガジンに関する各種変更、配信登録・解除はこちら
<http://www.jst.go.jp/melmaga.html>
- ▼ご意見・ご感想、お問い合わせはこちら
c-info@anzen-kodomo.jp

■発行日 2012年3月1日

■発行元

(独) 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター
「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域
領域WEBサイト <http://www.anzen-kodomo.jp/>
社会技術研究開発センターWEBサイト <http://www.ristex.jp/>
